



加藤 元の



と暮らして
みませんか

46

健康なペットと、乳幼児や子供が共に暮らすことは、脳や心の発達にとつて、とてもいいことです。

「心のハードウェア」としての脳は、十歳までに出来る上がるともいわれています。動物といふことで生まれる親のハッピーで優しい気持ちは、子供たちの脳（心）にも取り込まれ、前向きな子供に育てます。

また動物や自然が好きなお親のもとで、子供たちが犬や猫たちと早くから触れ合うことにより、人と人、人と動物、人と自然の間で確かな愛のきずなも育ちます。

一方で、両親が不仲であったり、母親が幸せでなかったりすると、子供の脳や心は当然、ハッピーには育ちません。ですから、妊娠したからといっ

アレルギー

動物と触れることで免疫力

てペットを遠ざける必要はありません。それよりペットの歯と体の健康を確かめてやることです。

科学的に（医学的に）裏付けのない周囲からの勧めで、ペットを無理に遠ざけたり、別れたりしたら、どんな気持ちになるでしょう。その気持ちこそ、胎児に大きく影響を与えます。つまりお母さんの脳（心）がアンハッピーであれば、胎児の脳（心）もアンハッピーになるのです。

また、妊娠を考えている家庭では、確かな動物病院で、しっかりとペットの健康チェックをしてもらいましょう。そして、ぜひ、そのまま一緒に暮らしてあげてください。

最後に、最近指摘される、ペットに対する子供たちのアレルギー体質に触れましょう。これは過剰な「免疫反応力」とも言えます。

免疫力は出生後間もなく急速に発育し、十六歳をピークに低下し、二十歳ころからほぼ横ばいとなり、加齢とともに落ちていきます。

ですから、赤ちゃんの時から徐々に動物たちと触れ合い、外でいっつもよく遊ぶことより、アレルギーのもとになるものになれ、正常な免疫力をつけていくことができるのです。

（ダクタリ動物病院広尾病院院長、日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティ会長）

《産経新聞2005年3月6日掲載》